

第20回災害対策本部員会議での知事の主な発言

1. 会議冒頭での知事の主な発言

- 本日14時時点で、死者220名、安否不明26名となり、孤立集落等の人数は、鶴巣地区などで道路啓開が進んだことにより、約800人まで減少した。
- 1. 5次避難所のいしかわ総合スポーツセンターについては、本日14時時点で194人を受け入れており、二次避難所（ホテル・旅館）とのマッチングと移送も軌道に乗ってきた。

本日から、いしかわ総合スポーツセンターのサブアリーナと産業展示館2号館も活用し、収容能力を約500人から約710人に拡大したところであり、受け入れを進めてください。

また、被災地の避難所から、1. 5次避難所を通さず、2次避難所であるホテル・旅館に直接避難する際の無料マッチングダイヤルを、明日の9時に開設する。県でも積極的に広報するので、ぜひ、ご活用ください。

これらと並行して取り組んでいる、孤立集落の避難者を丸ごと移送するミッションについては、本日は天候不良により移送困難と聞いているが、白山市や野々市市では受入体制も整っているため、明日以降、お願いしたい。

災害関連死を食い止めるため、1. 5次避難所・2次避難所等への移送と、孤立集落の避難者を丸ごと移送するという、この2つの面からの取り組みをさらに加速させてください。

- 被災地では、まだ始業の見通しが立っていない学校も多くある。地震に被災したことで、精神的なショックを負い、避難所で厳しく困難な生活を余儀なくされている児童生徒が多数いる。

教育委員会において、15日（月）から相談ダイヤルを開設する予定と聞いており、被災した児童生徒に対する心のケアをきめ細かく行ってください。

また、輪島市の中学生を白山市にある県立の施設（白山青年の家、白山ろく少年自然の家）で受け入れることが決まった。珠洲市と能登町からの同様の打診に対しても、調整を急いでください。

2. 会議最後の知事からの指示事項

- 改めて、被災地の避難所からの1. 5次避難所・2次避難所等への移送に加えて、孤立集落の避難者を丸ごと移送するという、2つの面からの取り組みをさらに加速してほしい。
- 1. 5次避難所は、介護等を必要とする方も多いと聞いている。被災者に寄り添ったきめ細かな対応を行い、病院・高齢者施設等も含めた2次避難所とのマッチングも進めてください。

- 2次避難所であるホテル・旅館に直接避難する際の無料マッチングダイヤルを、明日の9時に開設するので、積極的に広報してほしい。
- 応急仮設住宅については、昨日、輪島市と珠洲市で着工したが、ニーズに合わせて更なる建設を急いでください。みなし仮設住宅や県内外の公営住宅へのマッチングも進めてください。こちらも、分かりやすい積極的な広報をお願いしたい。
- 内灘町とかほく市の住宅被害が多い。特に内灘町は北部エリアが液状化し、現地に入った専門家によると毎日徐々に亀裂が広がっていると聞いている。明日以降の市町とのオンライン会議には、内灘町とかほく市も入れてほしい。ここを確認しておかないと、十分に支援できないので、お願いしたい。
- 故郷に帰るためのインフラの復旧が、いつ頃になるかを地域ごとに出せるよう、調査結果を早めに私の方に届けていただきたい。県庁の皆さん、政府の皆さんと共有したい。